

# 道徳科学習指導案

〈授業改善の視点〉

いじめをなくしたいという思いと、いじめが起きてしまう現実とのギャップに着目させることで、いじめをなくす大切な心について自分事として考えることができるであろう。

- 1 主題名 いじめをたち切る正義  
教材名 「わたしのせいじゃない」 C 公正、公平、社会正義

## 2 主題設定の理由

### (1) 学びのつながり

学習指導要領C「主として集団や社会との関わりに関すること」の中の内容項目「公正、公平、社会正義」の系統

低学年	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。
中学年	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
高学年	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
中学校	正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

これまで、低学年や中学年では、日常の指導において、具体的な言動を取り上げながらいじめは絶対に許されないということを理解させてきた。5年生では、道徳「名前のない手紙」を通して、勇気をもって正義を貫くことの大切さを考えた。

ここでは、教材「わたしのせいじゃない」を活用し、差別や偏見がいじめにつながることに気付かせ、公正・公平なものの方や考え方をしていくことの大切さを考えさせる。また、いじめに対して「わたしのせいじゃない」と言っている傍観者としての無責任な気持ちがいじめを生んでいるということに気付かせ、周囲の雰囲気や流れに流されずに、いじめを断ち切るために社会正義を貫こうとする態度を養っていく。

このあとは、日常生活の中でいじめや不公正な場面に出会ったときに、クラス全員の問題として考えられるよう意識させていく。正義を貫こうと勇気のある言動が見られたときには、ほめ認めながら実践につなげていく。さらに、中学校では、社会科の公民的分野の学習や特別活動での集団生活の向上についての学習などに関連付けながら、不正な言動を断固として否定するたくましい態度や、正義がとおり公平で公正な社会の実現に積極的に努めようとする態度を育てていく。

### (2) ねらいとする道徳的価値について

人間は誰しも社会正義に憧れ、それを実現しようとする気持ちや思いはもっている。しかし、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで誤った優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さももっている。この時期の児童は、差別や偏見がいじめなどの問題につながることを理解している。一方、いじめなどの問題に出会ったときに、傍観的な立場に立ち、問題から目を背けることも少なくない。こうした問題は自分自身の問題でもあるという意識をもたせ、自分自身の考えをしっかりと持ち、同調圧力に流されないで自分の意志を強くもち、学校や関係機関に助けを求めることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てたい。

### (3) 児童の実態〈男子19名、女子14名、計33名〉

本学級の児童は、誰に対しても偏見をもたず、公平に接することの大切さや、「いじめ」が許されないことだということを理解している。悪口を言う人に対し、注意をしている姿も見られる。

「いじめ」に対する事前のアンケートでは、「いじめはどうして起こると思いますか」という質問に対し、過半数の児童が「悪口を言うから」「おもしろがってからかうから」「けんかをするから」などと答えており、差別や偏見などが元になっているという根本的なところまで考えられている

児童は少数であった。自分と違う人を受け入れないというような悪口を言うてしまう原因まで考えさせることにより、いじめに気付き、正しい判断のできる児童を育てていきたい。また、「いじめをしているのはどの人ですか」という質問に対し、「悪口を言ったり意地悪をしたりしている人」「おもしろがって、一緒にかからう人」はほとんどの児童が当てはまると答えていた。「周りで見ている人（おもしろがっている人）」については2人、「周りで見ている人（心の中で止めたいと思っている人）」については1人、「見て見ぬふりをしている人」については2人が、それぞれいじめをしている人であると認識している。このことから、観衆や傍観者もいじめに関係していると考えている児童もいれば、いじめに関係ないと考えている児童もいることが分かる。観衆や傍観者が、いじめをなくすカギであるということに気付かせていきたい。

#### （4）教材について

「わたしのせいじゃない」（出典：「生きる力」 日文）は、いじめ問題を真正面から扱った海外の絵本による教材である。1人の子供が14人の集団からいじめられている。いじめられている子は泣いているのに、14人は皆、いじめは、「わたしのせいじゃない」と自己弁護する。その理由は、「傍観者だから関係ない」と言ったり、「見てただけで加担していない」と主張したりといじめにかかわっていないと考えているのである。また、いじめられている子供が悪いと考える子も登場する。「変わっている子だから」「考えていることが違うから」「よわむしだから」などの差別や偏見があるため、結果としていじめに加担している子供たちである。いじめの態様をよく現している教材である。

いじめをなくすためには、まずは、児童一人一人がいじめの原因に気付くことが重要である。そこで、この14人の登場人物の主張のどこに問題があるのかをこの教材を通して考えさせたい。差別や偏見という不公平な見方がいじめの元になっていることはもちろん、無関心、無責任といった態度がいじめを起こすことに気付くことで、道徳的価値を理解させる。そして、いじめはいじめではないということは、分かっているのになぜなくせないのだろうか、という意識のずれを考えさせる。差別、偏見、無関心、無責任等のいずれも根底には「自分が傷つきたくない」「自分もいじめにあいたくない」等の自分本位な心が潜んでいることに気付かせたい。

そして、本教材を元に、いじめをなくすためには公正・公平なものを見方や考え方をし、いじめかどうかを判断して、人に流されない強い心をもつことが大切であると考えさせたい。そして、いじめが起こってしまったら、勇気をもって立ち向かっていこうとする態度を育てたい。

### 3 指導方針

- 導入では、事前のアンケート結果を紹介しながら、いじめが身近な問題であることやいじめに対する気持ちを確認し、学習課題を意識化できるようにする。
- 展開では、まず、いじめの原因を考えさせることにより、差別や偏見、見て見ぬふりがいじめにつながっているということに気付くことができるようにする。その際、問題解決的な学習ができるよう、登場人物に対して問題点を見付けさせる。
- 中心発問では、いじめをなくしたいという思いと、いじめが起きてしまう現実とのギャップに着目させることで、自分事として考えることができるようにする。その際、友達の意見を聞いて自分はどう思うか考えさせたり、1人の意見を他の児童につなげていったりすることで、学び合う共感的人間関係を育み、友達の意見を通して新たな気づきが生まれるようにする。
- 教材の中の登場人物になりきって考える場面を設けることで、登場人物に自分を投影し、心の深いところまで本音で話し合えるようにする。
- 展開後半では、導入で考えたことや今までの自分を振り返ることで、いじめに対する自分の道徳的価値の深まりに気付くことができるようにする。
- 児童の反応に応じて補助発問や問い返しをすることで、問題を自分事として考えたり、本音を出したりできるようにする。
- 授業をTT体制で行い、T1は授業を進め、T2は補助発問をしたり意見を分類して板書したりするなど役割を分担することで、より深い話し合いができるようにする。
- 毎時間のワークシートをファイリングしていくことで、授業で考えたことや自己の変容を振り返り、実践意欲を高めていけるようにする。

#### 4 本時の学習

##### (1) ねらい

「わたしのせいじゃない」と言っている子どもたちの考え方から、差別や偏見、傍観者としての無責任な気持ちや行動がいじめを生んでいることを理解し、いじめをなくすために、公正・公平な言動やものの見方、社会正義を貫こうとする態度を育てる。

##### (2) 準備

教科書、ワークシート、挿絵

##### (3) 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
導入	1. いじめについてどう思うか、意見を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌なことをされたこと、あるな。</li> <li>・いじめをなくしたい。</li> <li>・いじめは絶対いけない。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果を紹介し、自分の日常を振り返らせる。</li> <li>・いじめをなくしたいという思いを確認し、学習課題につなげていく。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           学習課題：いじめを起こさせない大事な心はなんだろう。         </div>				
展開	2. 教材「わたしのせいじゃない」を読んで話し合う。  ○いじめの原因は何でしょう。問題だと思ふ子を取り上げ、その問題点を言いましょ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①自分のクラスで起きたことなのに、気にしていない。(無関心)</li> <li>・②同じクラスなのに「知らない」は無責任だ。</li> <li>・③見たのにだまっていたのはいけない。</li> <li>・⑧ほかの人と違うところがあるからって、差別している。</li> <li>・⑨人はそれぞれ考え方が違うのに、それを受け入れていない。(偏見)</li> <li>・自分がいじめられたらいやだから、見て見ぬふりをしてしまうのかな。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を読む前に、あらすじや着目する点を伝えることで、意識をしながら話を理解することができるようにする。</li> <li>・自分の経験を想起させたり、人間の弱さに共感させたりすることで、教材の内容を身近なこととして捉え自分事として考えていけるようにする。</li> <li>・T2は、いじめの元や構造などが視覚的に分かるよう、児童の意見を分類しながら板書する。</li> <li>・⑧～⑭の子供の発言を通し、差別や偏見がいじめにつながっていることに気付けるようにする。</li> <li>・傍観者もいじめに関係していることを意識させる。</li> </ul>
	○自分がいじめていると分かっている子はいらっしゃいますか。 補助：いじめをなくしたいと思っている子はいらっしゃいますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差別をしている子は、自分がいじめているって分かっているかもしれない。</li> <li>・見て見ぬふりをしている子は、悪いと思っているかもしれない。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられている子はどうしてほしいのかを考えさせることで、いじめを多角的に捉えられるようにする。</li> </ul>

<p>◎いじめをなくすために、大切なことは何でしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけでなく、ほかの人のことも考える思いやりの心</li> <li>・いじめを止める勇気</li> <li>・ちがいを受け入れる心</li> <li>・周りに流されない強い心</li> <li>・正しい判断力</li> <li>・公正、公平なものの見方</li> </ul>	<p>18</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめをなくしたいという思いと、いじめが起きてしまう現実とのギャップに着目させ、自分事として考えることができるようにする。</li> <li>・個人でじっくり考えた後、グループで意見交流をしてホワイトボードに整理させることで、公正・公平・社会正義について、多面的・多角的に考えることができるようにする。</li> <li>・全体で共有する際に、児童の意見に応じて問い返しをしていくことで、考えを深められるようにする。</li> </ul>
<p>○どういう考え方をしたら、こういう心が持てますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいことは何かを考える</li> <li>・人は違って当たり前と思う</li> <li>・広い考え方をもつ</li> <li>・正しいことをしようと思う</li> <li>・自分中心になっていないか、振り返る</li> <li>・相手のことを強く思う</li> </ul>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分と結びつけて考えられるよう、声かけをする。</li> <li>※考えたことをワークシートに書く時間を十分に取れ、自己決定できるようにする。</li> <li>※友達の考えを聞いてどう思ったのか考えさせることで、お互いに学び合う共感的人間関係を育み、いじめについて多面的・多角的に考えられるようにする。</li> <li>・友達と考えを交流させ、自分の考えを深められるようにする。</li> </ul>
<p>3. 友達の意見を聞いて考えたことや感じたことを、自分を振り返って書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りに流されずに、自分の意志をしっかりとって、正しい行動をしていきたい。</li> <li>・今まで、見て見ぬふりをしてしまったことがあるけど、勇気をもって正しいと思うことを実行し、いじめを起こさないようにしたい。</li> <li>・いじめをなくすために、自分も相手も大切に、ちがうところも受け入れていきたいと思った。</li> <li>・自分が大事という気持ちはみんなあるので、みんなが傷つかないために相手のことを考えて正しい判断をしていきたい。</li> </ul>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践意欲を高められるような声かけをする。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>4. 教師の話聞く。</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践意欲を高められるような声かけをする。</li> </ul>

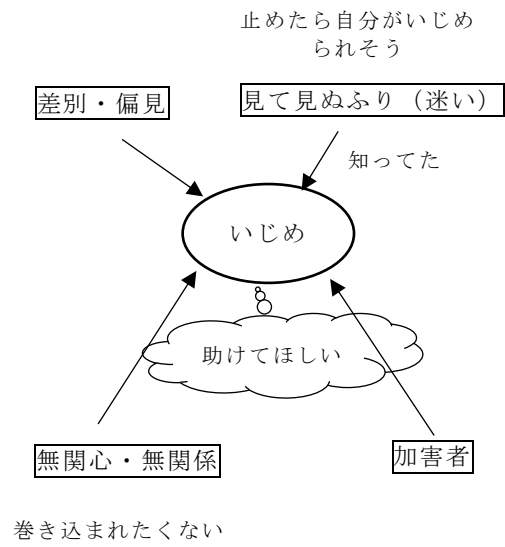
(4) 評価の視点

- ・ 様々な登場人物の考え方や感じ方・心の弱さを多面的・多角的に考えている。
- ・ 理解していることと現実とのギャップに目を向けることで、よりよい自分のあり方について考えている。(発言・ワークシート)

(5) 板書計画

第23回道徳授業

「わたしのせいじゃない」



自分には分からないの？  
わたしのせいじゃない？

正しいことをする

相手を理解する  
公正・公平な考え方  
判断力  
勇気  
人に流されない心

いじめなくさなくてはいけない

一人でも、強い気持ちをもって正しい行動をする  
みんな違うのは当たり前  
関係ないじゃなく、正しく判断。勇気を出す